

第6期（平成26年度）

事業報告書

自 平成26年4月1日

至 平成27年3月31日

平成26年度は、前年度に引き続き、交通信号施設工事に関する諸問題を調査研究し、交通信号施設工事に係る施工技術の向上及び経営の合理化の促進を図るため、

- 調査研究・普及事業
- 技術・技能研修事業
- 交通信号工事士技能検定事業
- 協会の目的達成における必要な事業

等について実施した。

1 業務運営に関する主な行事

主な行事は次のとおりである。

- (1) 総会 平成26年 5月26日 (月)
- (2) 理事会 (第1回) 平成26年 4月25日 (金)
- (第2回) 平成26年11月21日 (月)
- (第3回) 平成27年 3月 6日 (金)

(3) 委員会

ア 総務委員会

理事長、副理事長、各委員会委員長等で構成され、当年度の事業計画に係る課題の推進方法等を検討し、また、各委員会の取組状況の報告を求めて、取組内容、方法、スケジュール等の確認・調整を図った。委員会開催数7回。

イ 業務執行委員会

従来の委員会（ハンドブック編纂委員会、技術講習会運営委員会、交通信号工事士技能検定実行委員会）は、業務執行上密接な関連があることから、3委員会を業務執行委員会に統合し、その下部組織にハンドブック編纂作業部会、資格更新・技術講習会作業部会及び資格試験作業部会を設置した。

委員会開催数10回

ウ 防災・安全委員会

防災及び安全施工に関する調査研究委員会であり、委員会開催数8回。

エ 交通信号施設の未来を考える会委員会

道路交通安全施設の技術的発展に伴う施工技術を研究する委員会であり、委員会開催回数5回

オ 広報委員会

調査研究成果の推進及び普及に関する委員会であり、委員会開催数12回

2 事業の概要

(1) 交通信号施設工事技術の総合的研究

ア 技術資料の編纂

ハンドブック編纂作業部会において工事編、保守編、設計編を平成27年度末完成を目指して作成している。

イ 工事技術の標準化

工事及び保守業務の効率化、適正化、全国支援の容易さを目指して、標準化について調査している。

ウ 交通信号工事施工ハンドブックの普及

(ア) 業務執行参考資料として会員及び交通信号工事士資格者並びに行政関係機関に提供、技術講習会及び交通信号工事士技能検定試験の教本として活用並びに希望者に販売した。

(イ) 改訂要望に応えるための情報収集を行った。

(2) 技術・技能研修事業

業務執行委員会が中心となって、表1に示すとおり5月に、全国5地域で交通信号工事技術講習会を実施した。

表1 平成26年度交通信号工事技術講習実施状況

講習内容	講習1「交通信号制御機の構成と機能性能について」						
	最近の交通信号制御機の基本的機能とその性能、及び付加機能にはどのような機能があるか。部接続器（感知器・押しボタン箱など）とのインターフェースはどのような仕組みか。交通信号制御機の機能であるフェールセーフの考え方。障害が発生した場合、交通信号制御機内部のチェックポイント及び外部機器との切り分についてなどを説明する。						
	講習2「交通信号制御の基礎知識」						
	信号交差点の渋滞対策と事故防止についてどのような対策をすれば良いか。また信号機を設置するための三大要素（交差点、設計、運用）を基にどのような信号機を設置すれば良いか講習を通じて、交通信号制御の基礎知識を説明する。						
受講者	講習3「安全管理の方法」						
	交通信号機に関する工事において、健康に働くことと安全に作業する方法について説明する。関連する法令をわかりやすく説明して、病気や事故防止、事故事例についてのポイントを具体的に説明する。そして理解しやすいように交通信号工事施工ハンドブックやビデオを活用する。						
	場 所	茨城	埼玉	東京	熊本	大阪	合計
	期 日	5/20	5/22	5/23	5/27	5/29	
定期受講者	44	73	68	26	80	291	
一般受講者	0	0	5	0	3	8	
合計	44	73	73	26	83	299	

(3) 交通信号施設工事に関する技能検定事業

交通信号施設工事に従事する人材の育成と専門能力の向上を目的に協会独自の認定資格として、第2種交通信号工事士技能検定試験を平成23年度に発足させ、前年度までに1,660名の交通信号工事士が誕生しました。

平成26年度は、従来会員を対象に試験を実施してきたが、交通信号工事関係者からの強い要請により、受験資格を設けず誰でも参加可能とし、全国11会場において、平成26年8月3日（日）一斉に技能検定試験を実施した結果は、会員202名、非

会員161名（内警察職員19名）が合格した。

平成27年3月31日現在交通信号工事士は、2,023名である。

表2 交通信号工事士技能検定実施状況

開催地	札幌	盛岡	仙台	東京	新潟	名古屋
受験者数	29	47	24	58	16	57
合格者数	23	45	20	51	10	51
開催地	大阪	広島	高松	福岡	長崎	計
受験者数	59	7	18	66	32	413
合格者数	56	6	18	55	28	363

(4) その他の活動状況

ア 信号工事甲子園の開催

(ア) 交通信号甲子園（関東版）

- ① 開催日・場所 平成26年5月28日 株式会社カンドー埼玉工場内
- ② 競技目的 交通信号技術の向上及び継承と工事仕様の違いの克服
ベース式信号柱の建込、信号ケーブルの配線及び結線、車両用灯器取付及び結線、そして点灯確認までの工事内容で技術を競った。
- ③ 参加者 8企業（スタッフを含め135名）
- ④ 競技
竹重防災・安全委員長の開会挨拶及び開始合図により競技が開始された。
競技は、帯同の車両、工具を使用し各社の特色が生かされたものであった。
競技結果、優勝、準優勝、第3位、アイデア賞、部門賞（迅速性、正確性、安全性）及び特別賞が竹重委員長から授与された。

(イ) 交通信号甲子園（防災版）

- ① 開催日・場所 平成26年6月2日 株式会社シンコーワ（三重県）
- ② 競技目的 防災協定に基づく訓練
- ③ 参加者 8企業 来賓 三重県警察本部交通規制課長他
- ④ 競技
丹下理事長の開会挨拶に始まり、選手宣誓（常盤電業株式会社手塚寿一）に続き、竹重防災・安全委員長の競技開始の合図により競技が開始された。
競技は柱上間のケーブル仮設工事及び結線、歩行者灯器の設置工事及び結線、そして取り付けた部材の撤去工事を1時間以内で行い、安全性、確実性、迅速性、班長の指揮能力について順位を競った。
競技結果、優勝、準優勝、第3位、アイデア賞、班長賞、部門賞（迅速性、正確性、安全性）及び特別賞が丹下理事長から授与された。
閉会にあたり共栄電業株式会社笠島代表取締役から総評があった。

イ 情報発信の取り組み

広報委員会を中心に情報発信内容を検討し、ホームページによる情報発信の他、全信工ニュースを4回（第15号～第17号及び号外）発行し、本会会員はもとより、警察庁及び都道府県警察に提供した。

ウ 会員拡大に向けた取り組み

理事長、副理事長、広報委員会委員長、事務局長等が中心となり、8県の業者を訪問し本会活動の状況を説明し、入会を勧めた結果、会員数は204となった。

表3 会員数の推移

年 度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
正会員	70	99	120	128	136	146
準会員	14	23	41	49	50	58
計	84	122	161	177	186	204

エ 協会の意義・役割についての理解向上を図る取り組み

① 警察庁及び各都道府県警察本部長等に対する業務説明

各理事等（理事長、副理事長、常務理事、理事、事務局長）が中心となり、警察庁をはじめ、警視庁等11の警察機関を訪問し、警察本部長等に協会の目的、活動状況等を説明すると共に、「交通信号工事施工ハンドブック」を贈呈し、理解向上に努めた。

② 災害時における交通安全施設の復旧対策に関する協定締結

平成27年3月17日、岩手県警察本部と当協会は、地震・津波・風水害・火山噴火等が発生した場合の調査及び緊急に復旧する工事に関する協定を締結した。

締結式は岩手県警察本部で行われ、堀誠司本部長と当協会丹下正彦理事長が協定書を取り交わした。

古市常務理事、川村理事、竹野監事、竹重防災・安全委員長等が陪席した。